

女医さんもやっぱりお産の痛みは怖い？

vol.10年報/ 2015.11.1 発行

今年度から開始しました無痛分娩について、経験者の当クリニックの黒坂医師(麻酔科)と井戸口医師(小児科)、そして未経験のわたくし山崎(麻酔科)の3人で座談会をしました。お二人とも、分娩方法について考えていらっしゃる方々の参考になれば。と貴重な経験をきたんなく話してくださいました。



では…、
始めましょう!

黒坂先生の経験談は
年報Vol.8号「私の妊娠生活」、Vol.9号「私の出産」を
麻酔科 **ちょっと、ティータイム…** のコーナーで
掲載しています。

山 崎：私は先日、第三子を経膣分娩したところなのですが、まず、お二人に「無痛分娩」を選んだきっかけをお聞きますね。ちなみに私は3人とも超スピード安産だったんですが。(笑)

黒 坂：ご出産おめでとうございます。
私は自分が業務上行っている硬膜外麻酔を受けてみたかったのと、
麻酔後にどんなふうに陣痛の感じ方がかわるのか体感してみたかったのです。

井戸口：山崎先生おめでとうございます。
私の場合は妊娠当時同じ病院に勤務していた産婦人科の女医さんが無痛分娩で出産し、
私にも勧めてくれたからです。

山 崎：ありがとうございます。

黒 坂：山崎先生は麻酔科医でありながら、また無痛分娩に興味がありながら、どうして第一子のときに無痛をえらばなかったの？(もちろん身近でしてくれるところがなかったかもしれませんが、)

山 崎：んー。一人目のときから無痛分娩にしたいという思いは正直なかったですね。
痛みに強い、楽観的なのもあってお産の痛みが怖いとかそういう気持ちはなく自然に臨みたいなど
思っていました。お産って大丈夫。陣痛さんいらっしやーって感じでしたね。(笑)

井戸口：(笑)へえ～。

黒 坂：陣痛さんいらっしやーい!(笑)

山 崎：そうなんです。(笑)
で、無痛分娩を決めた時の旦那さんや家族の反応は、どんな感じでした？

黒 坂：お好きなようにどうぞと言う反応でしたよ。特に反対も賛成もありませんでしたね。

井戸口：「やってくれる病院があって良かったね。」と。

山 崎：そうなんです。
理解があるとも思うのですが、きっと無痛分娩についての正しい知識をお持ちなんですね。
ところで、硬膜外に関して合併症のリスクを医師としてはどう考えていましたか？

黒 坂：怖い合併症は確かにあり、間近でそのような患者さんも見たことはありましたが、
確率的にはとても低いものであるという認識で、それよりも経験してみたいという気持ちの方が強かったです。

井戸口：私の場合は普段から硬膜外麻酔をよくやっている麻酔科医にやってもらうので大きな不安はなかったですよ。

山 崎：なるほど～、それは医師ならではの「ご意見、ご感想」ですね。(笑)



女医さんもやっぱりお産の痛みは怖い？

vol.10年報/2015.11.1発行



山 崎：では、黒坂先生はVol.9号でもお話ししていただいておりますが、当日の感想やエピソードがあれば聞かせてください。

黒 坂：陣痛はだいぶつらかったですが、麻酔してからは、そのつらさが10分の1以下に減ったと思います。でも、いきむ力も弱くなってしまい助産師さんにかなりいきむためのサポートをしていただきました。お産が終わった後に主治医が「いいお産でしたね」と握手をしてくださったのが印象的でした。

井戸口：硬膜外麻酔後は痛みがすーっとなくなり、モニターで陣痛のデータを見ながら「赤ちゃんがんばれー」と応援する余裕までありましたよ。出てくる感覚はなんとなくあり、生まれた瞬間も感じることができました。

子供を目にした時.....

やっと会えたね...



生まれてきてくれて
ありがとう!



同じですよー...。

山 崎：同じですよー、、私もそうでした。
最後に無痛分娩を経験しての感想を話していただけますか。

黒 坂：はい、私は麻酔科だからか、まわりに無痛分娩をしてもらった先輩が結構いましたが、効果不良だったという人の割合も多かったので、陣痛が楽になったらもうけものぐらいの気持ちで受けました。予測よりお産が早くすすんでしまったので、硬膜外麻酔を受ける前に6時間ぐらい陣痛も経験しました。ですので無痛分娩を経験といっても全く痛みを感じなかった訳ではありません。しかし陣痛はたしかに楽になったので私の場合は「もうけた!」んだと思います。

井戸口：痛みのあるなしで生まれてきた子供に対する気持ちが変わるものではないと思います。
お産の痛みは忘れるといいますが私にとって、
お産の時に痛くなかったことは今でも忘れられず良い思い出です!

山 崎：貴重な体験談をありがとうございました。

山崎先生に私たちから……
またなぜ今、無痛分娩に興味があるか(できたか)ちょっぴり教えてください。

山 崎：はい、では次のページで。





では、
この座談会の締めくくりに

またなぜ今、無痛分娩に興味があるか(でてきたか)お話しいたしますね。

前ページの座談会でもお話ししましたように、
一人目のときから無痛分娩にしたいという思いはありませんでした。
痛みを取る仕事をしながら自分で痛みを感じることで小さいこと以外そうないですし
お産って痛いものだし、初産のときから痛みをずっと我慢しているので

「声出しているのよ?」「痛いついていいのよ?」って助産師さんにいわれたくらいです。

でも自身でお産を体験してから
お産というもののすばらしさを教えてもらい
これを仕事にしたいなと思いました。

私は麻酔科医。
産科麻酔!
無痛分娩やカイザー(帝王切開)、妊娠中の手術の麻酔などなど
お産に関わる麻酔の仕事!
お産の方法にはいろいろあっていいと思います。
カイザーもお産。カイザーになったお母さんには自分を責めている方もあり
麻酔の間、麻酔の前後、寄り添っていくのも麻酔科医の仕事だと思っています。
無痛分娩が一番っていうわけではないですよ。
そういう選択肢があっていい。
痛みの恐怖をとることで、お産に積極的にお母さんが臨めるのであればそれもいい。
そういうスタンスです。

ひとりの女性にとって大切な経験であるお産に
安心して臨んでもらうための手段のひとつが無痛分娩です。
いいお産のためには、その無痛分娩がどんなものなのかを
よく知ってもらうことが何より大事です。

この座談会が、お産について考えている方々のお役に立てれば幸いです。